

新型コロナウイルス・ワクチン予防接種に係る人権・差別問題ホットライン 概要まとめ

※相談者のプライバシーに配慮し、事案の同一性を損なわない範囲で一部事例を抽象化、加工しています。

第1 ホットラインの趣旨・目的

新型コロナウイルスワクチン接種に関して、2021年2月19日付け「新型コロナウイルスワクチン接種に関する提言書」を踏まえ、接種の強制・不利益取扱い（自己決定権侵害）・差別などの人権侵害の状況を把握し、必要な助言を行うとともに、当連合会により人権侵害防止に向けた取組を行っていく。

第2 相談の日時・件数

2021年5月14日（金）10～19時：138件
15日（土）10～17時：70件
2日間合計：208件

第3 相談者の住所（都道府県）

37都道府県（不記載・不明分を除く。）→ほぼ全国的
（内訳）北海道，東北（青森県・宮城県・山形県・福島県），関東（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・群馬県・栃木県），甲信越（山梨県・新潟県・長野県），中部（愛知県・静岡県・三重県・岐阜県・富山県・石川県・福井県），近畿（大阪府・兵庫県・京都府・奈良県），中国（広島県・岡山県・鳥取県），四国（香川県・愛媛県・徳島県），九州（福岡県・熊本県・佐賀県・大分県・鹿児島県・宮崎県）

第4 相談者の職業

本人のみならず、親・同僚・先輩などからの相談も多かった。

1 医療関係

①学生（看護学校生，大学生（看護学部・医学部）），②医療従事者（医師，看護師，病院事務，検査技師等），③薬局関係者，④救急隊員など

2 高齢者・介護施設関係

①施設従業員・介護士，②施設利用者など

3 その他

①会社員，②公務員，③会社経営者，④自営業など

第5 相手方の属性

- 1 学校関係者（看護学校，大学）
- 2 勤務先関係者（医療機関，高齢者・介護施設，雇用主，施設職員，同僚，その他関係者）など

第6 相談（電話）の経緯

- 1 テレビ： 130件（62.5%）
- 2 ラジオ： 23件（11.1%）
- 3 SNS： 6件（2.9%）
- 4 インターネット： 5件（2.4%）
- 5 ホームページ： 4件（1.9%）
- 6 新聞： 3件（1.4%）
- 7 テレビ&ラジオ： 1件（0.5%）
テレビ&HP： 1件（0.5%）
法務省人権相談： 1件（0.5%）
- 8 不明・不記載： 34件（16.3%）
(合計208件)

第7 相談者の年齢層

- 1 90歳代： 5名（2.4%）
- 2 80歳代： 43名（20.7%）
- 3 70歳代： 39名（18.8%）
- 4 60歳代： 22名（10.6%）
- 5 50歳代： 19名（9.1%）
- 6 40歳代： 26名（12.5%）
- 7 30歳代： 10名（4.8%）
- 8 20歳代： 4名（1.9%）
- 9 不明： 40名（19.2%）（学生含む）
(合計208名)（ただし，本人ではなく，第三者（知人・同僚・先輩等）からの相談の場合あり）

第8 相談の主な類型

- 1 人権侵害関係
 - (1) ワクチンの強制・不利益的取扱い（又はそのおそれ）
 - (2) 同調圧力・差別・不利益的取扱いに対する不安
- 2 説明・対応が不十分・不適切
 - (1) 医師
 - (2) 自治体
 - (3) 政府・報道機関
- 3 接種への不安
 - (1) 持病・アレルギー体質
 - (2) 副反応の懸念など
- 4 接種希望
 - (1) 接種を受ける機会
 - (2) 接種の同意者
 - (3) 接種の予約
- 5 その他

第9 相談の具体的内容（概要）

- 1 ワクチンの強制・不利益的取扱い（又はそのおそれ）
 - (1) 学生
 - ア 看護学生（看護学校生・大学生（看護学部））

ワクチン接種をしないと実習を受けさせない（そのため単位を与えられない）などと言われて、強制されている（同種相談7件）。

 - ①「希望しないということは実習しないということですよね」と言われている。
 - ②実習先で接種が望ましいとなり、学校で一斉に接種を強制されている。

「拒否するなら実習ができない可能性があり、単位取得できない」と言われた。
 - ③学生の中に受けたくない人がいる。自分（相談者）は個人の自由だと思っているが、学校側は受けないと実習に行かせないという方針のようであり、おかしいと思う。こういう状況があることを知ってもらいたい。
 - ④自分（相談者）の診療所でアルバイトをしている准看護学校生が、実習先の病院から「ワクチン接種しないと実習を受けさせられない」と言われている。
 - ⑤准看護学校2年生に対して、数日前に突然言われて1回目の接種をした

が、副作用が出た5～6名が「2回目の接種を受けたくない」と言ったところ、学校から「実習に行かなくてよいのか。卒業できなくなる」などと言われている。

⑥看護学校3年生の子どもが（学校の中で1人だけ）接種しない選択をしたが、学校から「不利益があるかも」と言われた。

⑦実習が始まるに当たってワクチンを受けるよう言われる。受けて当然という雰囲気。

イ 医学部生

①医学部の寮の統括者から「ワクチン接種しないと退寮，病棟実習できない」と言われた。病棟実習の先生に聞いたら「ワクチンを打たないから病棟実習させないということはない。ただ，寮のことは自分の管轄外なので言えない」と言われた。

②ワクチン接種をしなかったところ，寮担当の教授から呼び出され，自主退寮を勧められた。自分は自主退寮を受け入れているが，今後，大学のカリキュラムにおいて，ワクチン接種が単位取得の前提とならないか，心配である。

(2) 医療従事者

職場で拒める雰囲気がなく，接種をしなければ，退職等を求められている。

ア 看護師

①（病院から）「ワクチンを打たないならば，過去に予防接種などでアナフィラキシーショックが出たことの診断書を出せ。ワクチンを打ってコロナに罹患した場合には7割の給与を補償するが，受けずにコロナに罹患した場合には自己責任」と言われる。

②病院からワクチン接種を強制されている。同調圧力がある。

イ 医師

・ワクチンの安全性に疑問があり，都道府県からの接種協力要請に反対したところ，医療法人理事長から病院長を解任された。

ウ その他医療従事者

①臨床工学技師の夫が，職場の病院から「ワクチンを打たなければクビ」と言われている。

②後輩に接種を希望しない者がおり，病院からは「接種しないなら退職」と言われている。

エ 薬局勤務

・ワクチン接種しなかったところ，受付業務（対人業務）から後方業務に

移された。

(3) 医療関係者（プライバシー侵害関係）

職場でワクチン接種の有無が公開されることにより、強制されている。

- ①職場にワクチンを「受ける」「受けない」にチェックする表が張り出されている（「受けない」にチェックできる空気ではない。）。
- ②総合病院勤務の相談者はワクチン接種を受けていない（ワクチン接種は任意ということで強制はされていない。）が、接種を受け終わるとそのことが名札上に表示され、誰が接種したのか否か、外部からも一目瞭然になっている。接種の有無というセンシティブ情報を名札上に表示するのは不当であり、非接種者への差別である。

(4) 高齢者・介護施設

ア 介護施設職員

職場で全員接種が求められ、非接種の場合は退職・休職・配置転換等も求められている。

- ①相談者はワクチンを打ちたくないが、施設から「全員受けてくれ」「接種しなければ休職扱いとなる」と言われた。
- ②職場から「ワクチン接種は義務的」「打ちたくないのであれば、ここでは働けない（事実上クビ）」と言われている。
- ③1回目は接種したが、2回目は体調を崩しているのを、やめたい。しかし、上司から「医療従事者として打つのは当たり前」と言われている。
- ④職場で相談者だけが接種しないこととなったが、上司から「もしコロナに罹ったらあなたのせいだ」などと言われる。
- ⑤ワクチン接種を拒否したところ、部署替えを求められた。年齢もあって馴染めるかを心配して、退職した。

イ 介護施設利用者

- ・「ワクチン接種しないと通所施設を利用できなくなる」とケアマネージャーから説明を受けたため、やむなく応じた。

2 同調圧力・差別・不利益の取扱いに対する不安

(1) 医療関係者

ワクチンを接種しない者への同調圧力や差別への不安がある。

- ①院長クラスから「受けないと駄目だよ」と言われた。総務課は「院長は接種義務はないことは認める」とのことだが、他の医師は「絶対受けないと駄目」と言われており、受けないと上司の医師の指導などが受けられないのではないかと心配。

- ②勤務先でワクチンを打たないと言ったら、周囲から白い目で見られる。
- ③接種しないと「ワクチンを受けていない奴が仕事する場じゃない」という雰囲気があり、のけ者にされる。
- ④周囲の医療関係者がワクチン接種を強制されているため、今後、相談者も接種を強制されるのではないかと不安である。

(2) 介護施設職員

- ①アレルギー体質のため接種を拒否したが、施設側から「打つと言わないと動きません」「(打たないのは)あなただけですよ」などと言われた。
- ②ワクチン接種を拒否したところ、「辞めてもらうけどいいか」と言われた。

(3) 高齢者・介護施設の入所者・利用者

- ①介護施設のデイサービスを利用しているが、ワクチン接種はしたくない。ワクチン接種をしないことで、サービスを利用できなくなるか心配である。
- ②母親が施設入所しているが、「ワクチンを打たないなら出て行け」と言われないか不安である。入所時にインフルエンザのワクチン接種に承諾しているため、今回も接種を強制されないか。

(4) 高齢者・アレルギー体質

- ①主治医から接種しない方がよいと言われたが、接種しないと、将来施設に入るときに困るのではないか。
- ②薬でじんましんが出たことがあるので、ワクチンは打たないと決めているが、今後、差別されることはないか。打たない人のことは報道されない。
- ③アレルギーがあるので、医師から「接種しない方がよい」と言われた。今後、ワクチンを接種しないと映画館やレストランには入れないという不利益を受けないか不安である。アレルギーで接種できない証明書を発行してほしい。
- ④ワクチンの案内が来たが副反応が心配で受けたくない。受けないときの世間の目が心配。

(5) 大学生（医学部）

- ・ワクチン接種をしないことによる大学（医学部）での不利益が心配である。

(6) 市役所職員

- ・B型肝炎ワクチンの接種について上司に長時間説得されたことがあるので、新型コロナワクチンもこれから（説得が）あると思いき、同調圧力が予想される。

(7) 自営業者

- ・喘息の基礎疾患があり、医師からワクチン接種を止められているが、ワクチンを打たないと言うと、近所の人から責められる。今後、近所の目が心配である。

3 説明・対応が不十分・不適切

(1) 医師

- ①自分は持病が心配で打ちたくないが、かかりつけ医から「打つべき」ときつく言われて困っている。
- ②かかりつけ医に接種すべきかを相談しても「自分で決めて」と言われるだけで、悩んでいる。

(2) 自治体（県・市）

- ・過去にアナフィラキシーの経験があったため、県と市の相談窓口接種しなければならぬかを相談したが、笑われて、まともに取り合ってくれず、「どこかに今日の相談をすることはやめてくれ」と言われた。

(3) 政府・報道機関

- ①国内死亡者の状況を知りたい。
- ②ワクチンの情報（プラス・マイナス）を医療の信頼を損なわないためにもきちんと公開してほしい。判断するのに十分な情報提供がされていない。
- ③副反応の公表などが十分なされていない。

4 接種への不安

- (1) 持病・アレルギー体質を理由として接種への不安がある（多数）。
- (2) 副反応の懸念などを理由とした接種への不安がある（多数）。

5 接種希望

(1) 接種を受ける機会

ア 非正規社員のため医療従事者枠に入れない。

- ①派遣会社に登録されているが、派遣元でも派遣先（3か所）でも接種対象とならない。
- ②週1回クリニック（発熱外来）に勤務する看護師であるが、ワクチン接種の名簿に入れてもらえず、接種できない。

イ 住民票と住所が異なる場合

- ①原発避難特例法により福島県から県外に避難しており、現在の居住地にクーポン（接種券）が届いたが、住民票を福島県に残したままの原発避難者は、接種できない。
- ②建設作業員は、住民票と住居が異なる者が多いため、接種を受けられない。

(2) 接種の同意者

- ①高齢者の母親の接種同意について兄弟で意見が合わず，施設側は弟の同意のみで進めている。
- ②判断能力のない施設入所者には親族がおらず，成年後見人からも医療に関しては同意できないと拒否された。行政にも相談したが手段なし。

(3) 接種の予約

- ①初回接種から2回目接種が6～7週間空いてしまう。
- ②予約方法が分からない（多数）。
- ③予約の電話が繋がらない（多数）。

6 その他

会社経営者からの相談（接種を拒否したことを理由に配置転換などをするのは差別にあたるのか。採用面談の際に接種の有無を確認するのは差別にあたるのか。）

以 上